

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195000039		
法人名	株式会社ハンループ		
事業所名	グループホームはるる		
所在地	北海道常呂郡訓子府町字穂波67番地33		
自己評価作成日	平成28年1月15日	評価結果市町村受理日	平成28年3月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action=kouhvu\\_detail\\_2015\\_022\\_kani=true&JigvosyoCd=0195000039-](http://index.php?action=kouhvu_detail_2015_022_kani=true&JigvosyoCd=0195000039)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成28年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経験を重ねた職員が多くいる事もあり、日々のケアに加え、突発的な要望・緊急時等に、より専門性をもったスムーズな対応が可能となっています。そして入居者の残存機能を見極めより適切な援助が出来るよう、密な連絡等を日々行っています。  
また、入居者されている方々自身の想いを実現できる環境を構築するため、それを支える職員達の知識・技術・チーム力の向上のOJT、Off-JTに力を入れています。  
職員達自らが作成・講師を担当する毎月の勉強会に加え、外部研修等にも積極的に参加出来る体制作りを行い、常に新しい情報が得られるよう努めています。  
またその事により、全職員が気軽に意見交換を行えるので、モチベーションの維持向上も図られています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地元出身の利用者や職員が多く、散歩や買い物などで近隣の方から声をかけられるなど馴染みの関係が継続されています。訓子府町の協力もあり、婦人会や幼稚園などのボランティア、町内会の清掃活動、町内会行事、特に地域の秋祭りの運動会では、高齢者や子どもなど多勢の方に交じって玉入れなどに積極的に利用者様が参加するなど地域との密度の高い行事連携が図られ、地域の中で1つの世帯として暮らしているような地域ぐるみの支援があります。また、アニマルセラピーを行い手で触れたり話しかけたり、一緒に散歩に出掛けたりと利用者の心を和ませています。食事の下ごしらえや後片付け、掃除等、利用者自身で出来ることはしていただき利用者が仕事として生きがいを持つように職員は見守り、自宅と変わらない生活が送れるよう支援しています。施設長や管理者は、職員との良好な関係構築を図ると共に月1回職員がテーマを決め意見交換を行うことで、介護の質的向上や自主性、サービス向上へと繋げるようにしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念の重要性を理解しており、その理念を実践していけるよう取り組んでいる。	管理者・職員は理念を実践するために、職員自身が理念を掘り下げて共有できるように、会議などで話し合いや理念に沿ったケアについて振り返る機会を設け、日々のケアに反映できるように支援しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加していることで、婦人部の訪問等により日常的な交流が図られている。	地域住民と散歩時に挨拶を交わしたり、町内活動や町の行事などの参加で継続的な交流が行われています。地域住民から介護についての相談を受け、常に地域と密着した取り組みをしています。婦人会ボランティアによる利用者の話し相手や読み聞かせ、散歩などの定期的な支援を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町が主催する認知症勉強会等に講師・相談者として参加し情報の提供を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では気軽に話し合える環境があり、ご家族や町内の要望・意見を積極的に取り入れ反映させている。	運営推進会議は定例的に開催し、町職員・町内会・ボランティア・家族会の参加があり、事業所の利用状況・職員の研修・行事・事故などの報告を行い、委員の意見・助言を得て運営に活かしています。議事録は家族にその都度送付されています。	運営推進会議に研修などの内容を報告することで、認知症などの理解を地域住民に広めていくことを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日々すぐに連絡・相談できる体制が構築されており、運営推進会議においてはより細かく意見交換が出来る関係性が築けている。	行政と連携がとりやすい環境にあり、意見や情報提供を受け、良好な協力が保たれています。また、運営推進会議の出席や利用者の様子、ケアサービスの取り組みを伝え連携を深めています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束の内容を把握・理解しており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	職員会議で拘束・虐待について研修や意見交換を行う機会を設けており、参加できなかった職員への内容の伝達を徹底しています。管理者は、職員による利用者へのスピーチロックが生じないように、尊厳を持って接するように日々の言葉使いに気を付ける指導をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に学ぶ機会を設け、日々の法令順守と虐待のサインや環境が見過ごされないよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等について勉強会等に取り入れ、活用が図られるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定等の際には、必ず口頭で疑問や不安が残ることが無いよう説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の他、日々の中で意見等を把握する関わりを持つようにしている。要望等あれば職員会議にて検討し反映をさせている。	家族の親睦会開催や運営推進会議の出席など家族が意見や要望を出しやすい環境を整え、家族の面会時に雑談を交えながら利用者の暮らしぶりを伝え、意見や要望を引き出すように働きかけています。また、情報は全職員で共有しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や日々の業務の中で職員の意見・提案を聞くよう努めており、共に実践していけるよう取り組んでいる。	定期的に職員会議を開催し、ケアや日常の業務内容などについて職員から意見を聞く機会を設けており、話し合われた課題については、改善に向けて前向きに取り組み、働きやすい環境づくりに努めています。職員の資格取得にも積極的に支援しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に代表者・管理者で職員の現況について検討を行い、必要があれば環境の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量・経験年数に応じた内外の研修を企画・確保し、向上に努めている。また、資格取得に意欲的に取り組める体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等の他、グループホーム協会役員に参加等、ネットワークの構築に努めている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ず、ご本人、ご家族との面会の場を設け細かい聞きとりを行っています。その上で入所後はなるべく安心して生活出来るように色々な面で工夫、配慮し、ご本人の気持ちに沿った環境作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接にて関係を築きながら要望等配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の要望、希望を聞き入れ安心してサービス利用出来る様対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	些細な事でも出来る事はして頂き、その際には必ず感謝の言葉を伝えるように意識しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の想いや要望を受け止め、共に支えていく様、報告・連絡・相談を行っています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者は家族の協力の下お盆や正月に帰省しています。又、知人等面会に自由に訪問して頂ける環境づくりを行っています。	利用者の家族をはじめ、地域の知人や親戚の面会が多く、これまで関わってきた人との交流を継続できるよう支援しています。また、家族の協力を得ながら馴染の場所に出かけられるように支援しています。手紙や年賀状のやりとりをしている方には、利用者・家族の希望による返事や投函の手伝いをしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時や体操を行う際にはなるべく全員が参加されるように声掛けを行っています。又、食事の席は利用者の性格や性格リズムを把握し気の合う利用者同士になる様配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も必要に応じて面談や電話対応による相談を行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の利用、ご家族からの情報の提供。又、日々の生活の中での利用者との会話のなどから希望等把握に努めています。	一人ひとりと個別に向き合い、話しを傾聴する中からその時々思いを受け止め、希望や意向が生活に反映できる様に努めています。困難な場合は、その人らしい生活ができる様検討し実施しています。会議の中で意見交換を行い、職員の思い込みを排除し、日々利用者本意になるよう支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やご家族、ケアマネの情報を記録し把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式等を利用し、日々の生活や能力について把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族の意向に沿ったサービスを提供できるように月に一度の職員会議やモニタリングを基に介護計画を作成しています。	介護計画は生活動作チェックシートやアセスメントから課題を抽出し、利用者や家族の希望を基に、3ヶ月ごとに計画を作成しています。計画のモニタリングは担当職員が行い、目標と利用者の状況についての検討は毎月職員と話し合いながら行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録として個別に記入し、職員間で情報の共有を行い、今後のケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	場合により訪問看護の活用や緊急時の病院への受診など対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、町内会の方々等の支援を取り入れ、町の行事等、参加しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、受診は家族同行としていますが、希望によっては職員が同行しています。又、状況に応じて往診を行えるように支援しています。	本人、家族の希望するかかりつけ医への受診は基本家族が同行しますが、職員が同行する場合もあり、常に適切な医療が受けられるよう主治医と家族・職員が連携し情報を共有しています。月1回の訪問看護で利用者の健康管理に努めています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師が健康管理を行っています。利用者に異常が見られる場合には適切に連携を図る様しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・担当者等が医療機関へ出向き情報交換を行う事で、適切な治療・早期退院の補助となるよう努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員ではターミナル研修や勉強会を行っています。ご家族に対しては事業所で出来ることを説明を行い、またその時が近づいてきた時には再度、話し合いの場を設けご家族の要望もふまえ医療機関と連携を図っています。	契約時に重度化や終末期の対応について説明をしています。重度化した場合は、利用者や家族が納得が得られるよう話し合い医療機関と連携を図りながら支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡を円滑に行えるよう緊急連絡網を準備しています。又、定期的に職員は応急処置の訓練を行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の方々も交え避難訓練を行っています。	消防署の立会いのもと夜間想定で避難訓練を実施しています。地域住民の方には見守りをお願いし、隣の倉庫を避難場所として提供して頂いており、地域との協力体制を築いています。	災害対策として年2回以上の避難訓練の実施と避難経路の確保、職員の災害に対するシュミレーションを行い、安心や安全のためより良い対応、対策を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせ声掛けのタイミングや内容で笑顔を引き出せるような声掛けを行っています。また職員間で情報を共有し誇りやプライバシーを損ねないように会議等で勉強しています。	利用者の尊厳に配慮した対応、言葉がけを心掛けています。個人の書類の保管についても考慮されています。利用者や家族に確認して、利用者の希望に沿った名前の呼び方を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図る事で希望を引き出す様に努めていますが難しくなっている利用者に関しては会議等で利用者の立場に立った話し合いを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の利用者に合わせて日常生活をおくって頂けるよう利用者の情報を把握し支援できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族からなじみの衣服等の情報を得、ご本人が納得できる身だしなみの支援をしております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好をふまえ、体調に配慮した調理を行っています。又、利用者の体調や状態をふまえ準備等お願いしています。	食事は、当日利用者の希望を聞くなど意向を取り入れたり、菜園で取れた野菜を使用した献立になっています。季節ごとの行事食や誕生日、外での焼肉など楽しめるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は介護記録に記載しています。食事で十分な栄養が取れない方にはエンシュア等の栄養補助食品の提供。水分が十分に摂取出来ない方には利用者の好きな飲み物を提供するなど配慮しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている利用者には声掛け、見守りを行い、磨き残し等ある場合には介助を行っています。義歯に関しては夕食後に洗浄剤にて洗浄しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を確認し、個々に合った間隔で声掛け、誘導を行っています。又、行動の状態からも読み取る様にしており、早めの誘導も心掛けています。	利用者は排泄の自立はしていますが、本人の生活リズムや体調・パット交換などは時間を見計らって声掛けや誘導を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳飲料の提供や利用者に合わせて運動を行うことにより予防しています。時には医療機関への相談も行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本は午後からの入浴だが希望があれば午前からの入浴も提供しています。入浴を拒否される利用者には声掛けの工夫や担当職員を変える等対応しています。	午前・午後に関わらず利用者一人ひとりの希望に応じて支援しています。気分転換として併設されているデイサービスの浴場を使用しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホームの流れや周りの環境にとられることなく、状況に応じて静養等出来るよう支援しています。居室は静かで落ち着けるような環境づくりに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬確認表を作り服薬時に職員間での確認をし間違えのない様に徹底しています。又、処方内容がファイルにて管理を行い周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の状態に合わせて仕事を行って頂いています。毎月職員会議で行事を計画し実施しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の状況に応じ近所への散歩を実施しています。又、紅葉や桜、お祭りの季節には事前に計画し実施しています。	その日の天気や利用者の体調に合わせて、散歩や遠方への花見・菊まつり・温根湯へ行きアイスクリームを食べるなど支援しています。誕生日には利用者の希望を叶え家族と一緒に外食に出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、金銭は事務所管理としています。ただし所持出来る方が希望した場合にはご本人が管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば職員がダイヤルを押し対応しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた模様替えを行い、季節感を感じて頂けるよう努め、不快に思われぬよう生活空間づくりを行っています。	共有空間は明るく、フロアは行事の写真や利用者の書いた習字・季節ごとの飾り付がされて、楽しく居心地が良く過ごせる工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士座れる様にソファーやテーブルの配置に気を配っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には認知症の環境について説明し、ベッドや家具等なじみのものをもってきてもらっている。またわからないことに対してはわかるよう工夫している。	居室にはクローゼットが備え付けられ、使い慣れた家具やベッド・テレビ・冷蔵庫など持ち込み、家族写真が飾られ安心して寛げる場所になっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア、トイレには手すりの設置。居室には目印として表札をつけています。		